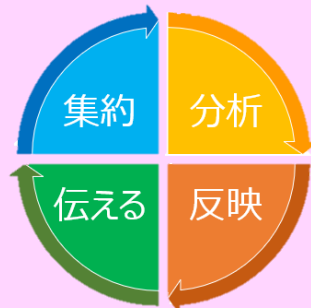


1-3月期の提案の振り返り

20年度関西北陸ブロックでは、ひとことカードに取り組むことを大切に、伝えていきます！

右図のような「ひとことカードの4つの段階」という捉え方を提案します。この4つの段階を意識してひとことカードに取り組むことで、組合員が生協の魅力や価値を実感し、自発的・継続的な運営参加につながると考えています！

特に、19年度の課題に挙げた「分析」「伝える」のプロセスに重点を置き、取り組みをすすめましょう！



01 ひとことカードの  
取り組みの紹介

富山大学生協 ハントライス企画

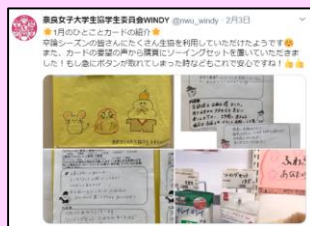
ひとことカードボックスに寄せられた「ハントライスを食べたい」という組合員の声から食堂のメニューにしました。ハントライスは即完売して、後日、ひとことカードに「美味しかったのでレギュラー化をして欲しい」という意見が寄せられました。組合員の声を反映して、学生委員会Twitterで反映したことを見える形で伝えていました。



ハントライス

奈良女子大学生協 ひとことカードの反映

「上着のボタンが取れてしまったので、糸と針がセットになった裁縫セットを置いてほしいです」という組合員の声から実際に購買に裁縫セットを置くようになりました。ひとことカードの仕組みを知っている学生がゼミの先生の一とことを聞き、ひとことカードを書いたことで実現することにつながりました。組合員の声に丁寧に答え、学生委員会Twitterでひとことカードを取り上げ、組合員に見える形で伝えました。



02 ひとことカードの  
集約のお願い

この機会にひとことカードを見直している大学もあるので自大学のひとことカードを振り返って見てください！

〈集約目的〉

組合員が声をあげるツールとして大学生協で非常に大事な役割を担っていると同時に身近な運営参加や店舗の魅力を増幅させるものとしてひとことカードの存在は大切であると考えます。今回の集約で自大学生協のひとことカードを振り返ることができ、他大学の取り組み状況も知ることができ、関西北陸ブロック全体で良い取り組みを広げ、ひとことカードの良さを高めあうことができればと考えています。去年に引き続きひとことカードの集約をします！よろしくお願ひします！

関西北陸ブロック学生事務局  
ともにつくる内局  
京滋・奈良エリア：橋、山崎  
大兵和エリア：永江、辻  
北陸エリア：加藤



ご質問や詳しく知りたい点があれば、担当事務局までご連絡ください◎